

ちいきづくり部会

1 今年度の活動目標・目的

「地域の中で障がい者がどのような暮らしができるといいか」について、障がいの理解促進の視点から検討する。

2 部会開催状況

① 6月18日(火)	13時30分～15時00分	出席者 11名
② 8月29日(木)	13時30分～15時00分	出席者 12名(うち ゲスト2名)
③ 10月31日(木)	13時30分～15時00分	出席者 8名
④ 1月9日(木)	13時30分～15時00分	出席者 11名

3 部会の取組、実施内容

取組	実施内容
① 地域住民理解に向けた啓発に関する協議	・部会員自身、または部会員が所属する事業所や法人で取り組んでいる、地域に向けた障がいの理解や啓発に関する取り組みを共有、確認。活動する中で見える課題について意見交換。 ・大府市内の医療や福祉の関係機関の方に来ていただき、各法人の地域住民に向けた障がいの理解促進に関する取り組みと課題についてお話をいただき、地域の中ですでに取り組んでいることについて確認。 ・市民アンケートを実施(年度内かけて実施していくため、現時点も実施中)。1月9日時点、341人。
② 地域移行に関する協議	・確認、共有 施設入所者、精神科入院患者について／令和6年度の報酬改定の内容、施設入所者の地域移行の意向確認について／第7期障がい福祉計画における目標について ・令和2年度作成の精神科入院時の地域移行を実施するにあたってのフローチャートを参考に実施した中での意見交換。 ・医療側が感じる地域移行の課題について確認 ・施設入所者の地域移行に関する意向確認の方法等についての意見交換

4 成果

○地域の中で、すでに各法人等が取り組んでいる、地域住民に向けた啓発活動や理解促進に関する活動について把握ができた。

○市民向けのアンケートを実施することで、地域住民の方の意識や意見を知ることができた。

→上記2点から、以下のことを確認した。

- ① 小さい頃から、当事者の方と触れ合う機会が生活の中にあること、障がいに関して学ぶ機会が持てることが大事」
- ② 地域の中でかかわれる機会(イベント)でコミュニケーションと相互理解を促進していくことができるといい」
- ③ 当事者の方からの発信や、受援力もポイントに考える
- ④ 心のバリアフリーを目指せるといい。…人として、お互い様、思いやりのある地域
 - ・理解してもらうことは異なる、理解を進めるには一歩踏み込んだ取り組みが必要。
 - ・知らないことによる、怖さや偏見があることも事実である。
 - ・「障がい」や「障がいのある方の生活」について伝える機会が充分にない。
 - ・福祉に興味のある方だけでなく、広く市民に理解を広げられるといいが、現実的には難しいので、まずは関心がある方にしっかり理解をいただき、そこから少しずつ地域の中で広がっていくといい。
 - …打ち上げ花火的な催しではなく、地道に継続的に取り組んでいく事が必要。
 - ・小さいころから学ぶこと、触れ合うこと、当事者がいる生活や暮らしがあることが望ましい。
 - ・障がいの有無ではなく、人としてお互いに思いやりを持っておたがいさまがある地域づくりが大切。

○精神科入院患者、施設入所支援の利用者への地域移行の意向確認、地域移行に関する協議の場に関して意見交換ができた。

- ・入院患者の地域移行に関しての意向調査の検討が必要。
- ・施設入所者に関しては、今後入所施設の意向確認の担当者が設置されていくため、担当者と連携を図っていく必要がある。
- ・フローチャートについて
 - ケース始動の合図としてまずは協議の場を設けることとなっているが、ここがそのタイミングでの実施ができていない。
 - 課題が生じる(把握できる)タイミングが、ケースによって異なるため課題への取り組みの検討が必要なタイミングで共有の場を設けていけるといい。
 - 事例を通してフローチャートに肉付けできるといい。

5 課題(次年度以降の実施事項)

・当事者の考えや思いの把握ができていない。

⇒当事者アンケートの実施

地域の中で、啓発活動を展開していくにあたり、現在は住民と支援者からの意見を中心にどういう地域づくりを目指して理解促進活動に取り組めるといいか検討をしている。

今後、具体的な活動内容を考えていくにあたって、当事者自身の思いが反映されていなければならず、次年度はアンケートにて当事者の思い等を確認していく。

・地域移行に関する協議の場の設定について

現在はちいきづくり部会において協議の場を設けているところではあるが、ちいきづくり部会は主の協議事項に合わせて部会メンバーを設定していること、また協議できる時間が限られること等から、より適切な協議体の持ち方について、改めて検討が必要。